

こんなところに 巖島神社が
佐倉 井野を歩く

地図を眺めていたら、気になるものを見つけた。京成電鉄の志津駅を北口に出て、成田街道を西へ少し進み、井野の交差点を北に入った所にある「巖島神社」。

一般的には、巖島神社は海の守り神として海岸沿いの集落に在ることが多い。海岸線から何十キロも離れたこの地に、何故巖島神社があるのかが気になり、正月明けの午後、穏やかな陽差しに誘われて出かけてみた。

【巖島神社と加賀清水】

井野交差点を北上して、スーパーマーケットに車を停めて歩くことにした。

スーパーマーケットの前の、住宅地の中の路地を歩くと緩やかに下るようになる。下りきった谷にきれいな水路が切り込まれており、水が流れている。水辺には遊歩道が付いた緑地があり、その先には池が広がっている。池の水はかすかに北に向かって流れている。水流を感じる水路の北端の陸地に、朱塗りの鳥居と小さな石の祠があり「巖島神社」と刻まれていた。(<https://yahoo.jp/zp3Qca>)

そして、その横に立つ小さな石の祠には水の神「弁財天」が祀ってあった。。

丁寧にしかもやり過ぎぬ程度に整備されている水辺には、か細いながらも遊歩道が両岸に作ってあり、中の島もある。落ち葉が沈んだ水路を覗くと、澄み切った水が音もたえずに流れていた。

岸辺を歩いて行くと、遊水池の南端に、もうひとつ鳥居と巖島神社の入口を示す標識が現れた。おそらく成田街道側であるここが正面と思われるので、裏口から入って玄関から退室することになってしまったようだ。鳥居の中に小さな祠がもうひとつあり、石に刻まれた文字は「加賀清水」となっていた。申し訳ないので、正面から入ってもう一度一巡してきた。入口の脇に立つ説明板を最後に見ることになったが、こんなことが書いてあった。

佐倉城の第八代城主である大久保加賀守忠朝が好んで口にしていた湧水で、「井野清水」と言われていたが「加賀清水」とも言われるようになった。後に成田街道沿いにあった「林屋」という茶店がこの清水を客にふるまって、たいそう繁盛した。

佐倉城は戦国時代に、本佐倉城主であった千葉親胤の命で鹿島幹胤が築城に着手したものの、相次ぐ千葉一族の暗殺により完成には至らなかった。1610年(慶長5年)、徳川家康の命を受けた土井利勝の力で完成に漕ぎ着けた。土井利勝を初代城主として、石川忠総・松平家信・松平康信・堀田正盛・堀田正信・松平乗久と続いた後の八代目の城主が大久保忠朝。その後は、戸田氏・稲葉氏・松平氏と続いた後再び堀田氏になり、廃藩置県を迎える。

明治に入ると「富国強兵」政策により、軍隊の主要施設がここに整備され、軍国日本の一角を担うようになった。八代目城主の大久保忠朝という人がどんな人物でどんな業績を上げた人なのかは定かではないが、幕府譜代藩領となったことが安定した繁栄につながったという見方も在るが、度重なる人事異動で頻繁に城主(藩主)が交替していたという見方も出来る。

成田街道の北側の住宅地の根元から湧出する水は北に向かって流れ、最初に見つけた北側の祠の後で道路下の暗渠に消えている。地図や地形図を確認してみると、この水はやがて高野川(こうやがわ)となり小竹川となって印旛沼に注ぐようである。上高野の台地と、今はユーカーが丘という名前になってしまった井野の台地の間に挟まれた谷間の湧き水で、まだ住宅地などが出来る前の原野だった頃の景色を想像してみると楽しくなってくる。所々にある住宅地の中の調整池が、この土地の素性を示しているような気がする。

湧き水を客にふるまっていたと言う茶店「林屋」があったのは、成田街道からこの湧水に入る小道の門口になるところで、現在はアメニティハイム 21 というマンションが建っている。(<https://yahoo.jp/bl8Sbt>)

成田街道に面した正面に成田街道道標・常夜灯と加賀清水への入口を示す標識があったが、東日本大震災で被災して撤去されてしまったらしい。

巖島神社の祭神は、市杵島姫命（いちきしまひめのみこと）・田心姫命（たごりひめのみこと）・湍津姫命（たぎつひめのみこと）で宗像三女神と言われている。市杵島姫命は商売繁盛・五穀豊穡・金運・海上安全などの神で、田心姫命は縁結び・夫婦円満・子宝の神、湍津姫命は交通安全・海上安全の神。巖島神社は弁財天と合わせて水に関する守護神となることが多いので、加賀清水の守護神としたのだろう。

【稲荷神社】

加賀清水の西側に隣接しているのは稲荷神社。（<https://yahoo.jp/KoQKpu>）

創立時期は文化年間（1800年代初頭）と言われている。井野新田の鎮守としてできた村社だった。祭神は倉稲魂命（うかのみたまのみこと）で、穀物の神・農業の神とされている。

大きく立派なコンクリートの鳥居を潜ると、境内には井野町青年会館もあり、その奥に社殿が建っている。

社殿の裏手の小高い膨らみの上には羽黒山・月山・湯殿山と書かれた出羽三山参拝記念碑が並び、その横には秩父などの巡礼講の記念碑もある。碑文に記された名前を見ると、出羽三山へ行くのは男で秩父へ行くのは女だったらしい。出羽三山参拝碑の一番新しい物は「平成4年」となっているので、現代にも息づいている行事のようだ。

境内の片隅に密かに建つ小さな庚申塔を覗いてみたら、「文政元年」と書いてあった。（文政元年=1818年）古くからこの土地に住む人々は農業を専らの業として、天を仰ぎ、汗を流して、地域が結束して暮らしていた。そんな空気が伝わってくる神社だった。



【井野長割遺跡】

巖島神社・稲荷神社から北東へ1.5Kmほどの所に井野小学校（佐倉市西ユーカリが丘3-1-64）がある。創立は昭和46年、つまりユーカリが丘の開発によって誕生した若い学校である。この学校を建設する工事にあたり、昭和44年に発見されたのが「井野長割遺跡」。海拔27mの台地に人工的に環状に盛土された集落跡で、多くの遺跡・遺構が見つまっているらしい。（井野長割遺跡はここ <https://yahoo.jp/SAZeFB>）

縄文時代後期と時代を確定出来るものが数多く発掘され、国指定の遺跡になっている。

小竹川の支流である高野川と手繰川に挟まれた北に伸びる舌状の台地上にあり、周辺にはいくつもの遺跡がある。古代には印旛沼は海だったようなので、海を見下ろす台地に集落が形成されていたのかもしれない。国土地理院の地形図を見ると小学校の校庭の中央部に「∴井野長割遺跡」と表記がある。

この小学校の隣にも巖島神社があり、南西に向かって建っている。つまり、加賀清水の巖島神社の方角を向いているのは何かの偶然だろうか。

以上